

日本レチノイド研究会会員の皆様

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、新たな気持ちで2010年を迎えられたことと思います。

おかげさまをもちまして、日本レチノイド研究会会長を2年間務めさせていただき、本研究会の生みの親である首藤紘一会長に引き継ぐことができました。多くの会員の方々、事務局の方々を支えられ、第19回と第20回学術集会の開催、20周年記念実行委員会の創設、研究会ホームページの開設を行いました。

本研究会は、1989年に東京で開催されたシンポジウム「レチノイドとがん」が契機となり、その世話人である武藤泰敏先生、首藤紘一先生、藤木博太先生が中心となって創設されました。薬学、医学、農学、生物学と多岐にわたる分野の研究者が一堂に会し、レチノイド研究を中心に発表し、学ぶ研究会であります。研究会には、製薬企業研究者も参加し、研究会を通じて、多くの共同研究も進められています。20年を経て、レチノイド関連薬剤が、ようやく悪性腫瘍の臨床に用いられるようになってまいりました。研究会として今後、こうした薬剤を育てていくことも役割だと思います。認知症、メタボリック症候群など、レチノイド研究が寄与できる分野は、さらに広がっていくと思います。また、世界では未だにビタミンA欠乏症は存在し、貧困、戦争といった社会情勢とも密接に関与しています。乳幼児のビタミンA欠乏は、易感染性を惹起し、その死亡率を高める重要な要因です。日本が、積極的にこうした問題に貢献するためにも、本研究会の役割は重要であると考えます。もちろん、生命現象の根源である、転写制御、エピジェネティカル制御、発生などの最先端研究を勉強する場を提供することも求められています。

2010年は、首藤会長の強力なご指導のもと、日本レチノイド研究会がさらなる発展をすることを願っております。第21回学術集会は、11月13日、14日に玉井浩先生を世話人として、大阪医大にて開催予定で、すでに魅力的なプログラムが準備されております。最後に、一般会員、賛助会員の皆様に、感謝の念をお伝えするとともに、皆様の益々のご発展を願っております。

2010年1月  
松浦知和